

新潟県立長岡聾学校

きこえ通信

令和5年度 第8号

当校 HP にも掲載中!
⇒R4~の通級便り、
R5.4~のきこえ通信

新潟県立長岡聾学校通級指導教室

〒940-0093 長岡市水道町2-1-13

Tel 0258-38-0210 (通級指導教室)

*18:00頃までをお願いいたします。メールもご利用ください。

FAX 0258-39-5665

e-mail school@nagaokarou.nein.ed.jp

発行：令和5年12月

上越教育大学 坂口先生のご講演より

難聴のある児童生徒への理解と支援



先日、当校主催で「耳やきこえに関する理解研修会」を実施いたしました。ご参加くださった方々、ありがとうございます。昨年度に引き続き、聴覚障害教育が専門の、上越教育大学 坂口 嘉菜 先生にお願いし、オンラインで行いました。ご講演内容の一部をご紹介します。掲載に当たっては、坂口先生にご了解をいただきました。

坂口先生ご講演 概要

◎難聴のある子の支援「困る前に！」

- ・「こういうことで困るかもしれない」という想定で、困る前に支援を行う。不必要だったとしても、やらない方が良かったということはない。

◎言語指導の観点から

- ・ことばを定義できる「概念化」。人は概念を使って物事や事象を見る。
- ・概念獲得はことばの定義に現れる。(例)バナナとは？○の例:くだもの、×の例:毎朝食べている
→概念を用いて定義できることが大切。「～は何？」への答え方は、その子の理解
⇒豊かな環境の中(季節の物、現在の学習している物、そろそろ学習する物(ことばの種まき))で言葉の獲得を！

◎学習支援の観点から

- ・9歳の壁：抽象的な文章や概念の理解が難しい。生活言語から学習言語への移行が困難。
因果関係を見いだして論理的に考えて読むことが難しい(推論を加えて行間を読む)。
→小学校中学年頃からの学習は、推論が伴わないと内容を理解することが難しい。
指導例：板書に思考の過程を残す、グラフなどの視覚情報に解説などのことばをのせる。

◎自立活動の観点から

- ・自立活動の内容は、障害種で決まらない。その子の中心課題に即した内容として、何が導き出されたかが大切。結果的に同じ内容だったとしても、そこに至るまでの手続きが重要と現在の学習指導要領では強調されている。

⇒実態把握のための情報収集→情報の整理→中心課題→「個別の指導計画」

参加された方からは「改めて、難聴のある子について、理解が深まった」、「この内容は、難聴のある子に限らず重要な観点」、「どの子にとってもコミュニケーションは大切だと思った」などの貴重なご意見をいただきました。ご講演の中で「きこえて何かあれば聾学校へ相談を」とのお声がけもいただきました。

そうだったのか!聴覚!!

主にヘッドホン難聴について

今、WHO「世界保健機関」が聴覚を重視するのは…

先日、たまたま発見したことです。筆者のスマホはiPhoneなのですが、「ヘルスケア」というアプリが最初から入っていて、そこを見ていくと、「聴覚」という項目があります!他の機種は確認していませんが、同様の機能があるかもしれません。当校に来られた人工内耳メーカー「日本コクレア」の方が「Appleと連携している」とのお話をしてくださりました。iPhoneのヘルスケアの項目にある「聴覚」の概要は次のとおりです。

<音量について> *最近TVドラマにも「大きな音を長く聞いて難聴になったミュージシャン」が登場
・80デシベルを超える音(飛行機、工事現場、電車、大型のバイクやトラックなど、コンサートなど)は大きな音とされ、聞き続けている時間の長さによって、聴力は影響を受ける場合がある。

<難聴について>

・難聴の原因は、加齢や特定の疾患などが考えられるが、大きな音を長時間聞くと、一時的に聞こえにくい状態になることがある。大きな音を聞いたあとに、耳を回復する時間がないと、耳が損傷を受ける可能性が高くなる。難聴は徐々に発症することが多いため、自分で聴力低下に気が付きにくいことがある。

<音を聞くことから聴覚を保護する方法>

・大音量で聞く時間と頻度を制限すること。*スマホの機種によっては設定できます。

少し前ですが、「ヘッドホン難聴」について、次の報道がありました。

朝日新聞デジタルより(右のイラストも) 藤原学思 2019年2月13日 9時55分



若者の2人に1人に難聴のリスク——。スマートフォンやMP3プレーヤーで大音量で音楽を聴く若者の増加を懸念し、世界保健機関(WHO)と国際電気通信連合(ITU)は12日、音楽再生機器の使用に関する国際基準を公表した。WHOは、世界の12~35歳人口の約半数にあたる11億人に難聴のリスクがあると指摘。安全に使用するには、大人の場合、走行中の電車内の騒音と同程度の「80デシベル」の音量で1週間に40時間、子どもの場合は「75デシベル」で同程度の時間が限度だとしている。また、音量と時間を記録して利用者に危険性を知らせたり、親が音量を管理したりするような機能の搭載も推奨。WHOのテドロス・アダソム事務局長は「失った聴力は元には戻らないことを理解しなければならない」と呼びかけている。

このような音や聞こえを取り巻く状況があり、上記中の「音量と時間を記録して利用者に危険性を知らせたり、親が音量を管理したりするような機能の搭載も推奨」がされ、その結果、Appleは人工内耳メーカーコクレアと連携して聴覚の情報をiPhoneに記載したり、音量管理等の機能を搭載したりして、ヘッドホン難聴の予防に努めているのではないかと推察されます。周囲の人に分かってもらいにくい、難聴です。聞き取れずに会話に入りにくい、必要な情報が得にくいなどの寂しい、不便な思いをすることもあります。現在、大きな音(音楽、ゲームなど)を聞く習慣がある人は、聞く時間や音量に気をつけてほしいと思います。

聞こえについて、相談がありましたらご連絡をお願いいたします。

通級生徒在籍校の先生方へ 今年度の在籍校訪問を全て終了いたしました。ご多用の中、お時間をいただき、本当にありがとうございました。また、日頃のご指導、ご配慮をありがとうございます。今後とも連携をよろしくお願いいたします。何かありましたら、ご連絡をお願いいたします。

この通信をご覧になっている皆様へ きこえて気になることがありましたら、当校へご連絡をお願いいたします。

良いお年を
お迎え下さい